

#### 第41回会長の時間 ロータリーにおける親睦の歴史 平成29年6月8日

6月は「ロータリー親睦活動月間」です。本日は、ロータリーにおける親睦の歴史についてお話しします。ロータリーの創設者のポール・ハリスが、初代シカゴ・ロータリークラブ会長で石炭商のシルベスター・シールと、ロータリーの構想を話す時、「親睦について」の言葉が出てきます。

それは、1905年2月23日、小雪まじりの風が吹くとても寒い夜のことでした。ポール・ハリスは、シカゴ・イリノイ街にあったお気に入りの店で、石炭商のシルベスター・シールと二人で夕食をとっている時、ポール・ハリスは新しいクラブの構想を語りました。シカゴにある今までの社交団体とはまったく違った、新しい種類のもので、知己と友情を十分に強調して、会員同士がお互いのビジネスを伸ばせるようなクラブを作りたいと提案しました。ただし、クラブの中に競争相手が出ないように二人の会員が同じ職業を持つ事が出来ないと決めました。そして会員の誰かが品物やサービスが欲しい時には、クラブ内の人と取引する義務を持たせるといった、相互扶助の理論を説明しました。シルベスター・シールは、ポール・ハリスのこの構想に賛同し、その足でシカゴ川を渡り鉱山技師のガスター・ロアの事務所に行きます。としてロータリーが生まれる話になります。この会話が、ロータリーの最初の「親睦」です。シカゴ・ロータリークラブが設立されますが、当初のシカゴ・ロータリークラブには奉仕の概念はなく、事業の繁栄と親睦を目的にして設立されています。当時の「定款第2条 目的」には、「会員の事業上の利益の推進」「社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進」という2項目しかありません。ですから、親睦という言葉はロータリーの初めからありました。注意すべきところは、この定款によれば、統計係という役職が設けられて、例会の出欠席とともに、会員相互の商取引や斡旋の結果を郵送して例会に報告する義務があったことです。この委員会は全米ロータリー連合会に基づき、クラブや州をまたいだ取引の統計係も設置されていました。また、会員同士の物質的、相互扶助であったクラブは、会員各自の事業の内容が外部者に漏れないように、機密保持を徹底しました。定款第10条には機密保持という項目を設け、「例会におけるすべての方針、規則、細則、および商取引は、厳密に機密を保持するものとする。」この定款では、例会は4回続けて欠席すれば退会となると定めた一方で、例会は月に2回とし、さらに7月と8月は休会という規約で、今とは、だいぶ異なります。1912年8月6日、シカゴクラブ定款が変更され、親睦と事業上の利益の推進という目的がなくなります。それから、10年後の1922年のロサンゼルス国際大会において現在の名称「国際ロータリー」となります。

そして 1923-24 年度の R I は、ガイ・ガンディカーという会長が就任しましたが、この年の国際大会は、決議第 23-8 や第 23-34 があり、ロータリーにとって節目となる年で、日本では関東大震災がおこった年でもあります。このガイ・ガンディカー R I 会長は、東京の災害復興に多大に貢献されましたが、ロータリーで初めての文献と成るものを残した人物としても有名です。その文献の中で、親睦についてこう語っています。

「良き親睦は、決してロータリーのすべてではなく、良き親睦は、ロータリーという苗木が根をおろし、成長するための土壌に例えられる」と述べ、そしてこの良き親睦を形成するものとして 7 つ上げています。

1. 真心のこもった握手
2. 姓ではなく、名前で呼び合うこと
3. 歌の合唱を行うこと
4. ある種の、ウェットに富んだ行動
5. 各会員相互間に行われるその他の親切
6. 議長、同僚たる会員および招待者に対する礼儀正しい行動
7. 老練な企業経営者にして始めてできる、紳士の振る舞いと思慮深さ

この 7 つが、親睦を形成するものと言っています。

初期のロータリーから探れる、確かな「親睦」は、ポール・ハリスの話と、ガイ・ガンディカー会長の文献ぐらしか、日本では残っていないようです。日本のロータリーではよく「親睦と奉仕が両輪」と語られ、それを説明するために、親睦は、クラブ内活動・例会活動、奉仕はクラブ外活動・例会外活動であるといわれます。ロータリー・クラブは、初め、知己と友情を深める互惠取引の機密を守った団体でした。ロータリー・クラブは、一人一業種で選ばれた、地域に有用な職業に従事する職業人が例会に集まって、何でも語りあえる雰囲気があり、お互いの事業上の発想の交換や、職業倫理の高揚、人のため・世のために何をすべきか本心で語り合って、自己研鑽を図ることができるクラブに変化して行きます。しかし大切なことは、クラブ内の互惠取引や、地域内の利害関係によって自由な発言ができなくなることは、「礼儀正しい行動」や「紳士の振る舞いと思慮深さ」に反しますから、クラブ内の「自由な発言」を推進・保持するためには、クラブに不文律が必要になります。この不文律、暗黙の了解事項こそが、知己と友情から始まった握手、ウェット、礼儀正しい行動、紳士の振る舞い、思慮深さといった言葉に代えて説明されています。

ロータリアンには、卓越した事業の専門家がいますし、豊かな人生経験を持った人や、高い倫理観を持った方々もおられます。確かに、ロータリー・クラ

ブは人生勉強には事欠きません。ある時は師となり、ある時は生徒となって、クラブ例会を通して人生を学んでいます。それらを可能にする前提としては、ロータリアンがすべて平等でなければなりません。そのような雰囲気の中で、会員相互が切磋琢磨することにより、本来の奉仕の心が育てられると思います。皆様、親睦を通してロータリーライフを楽しみましょう。